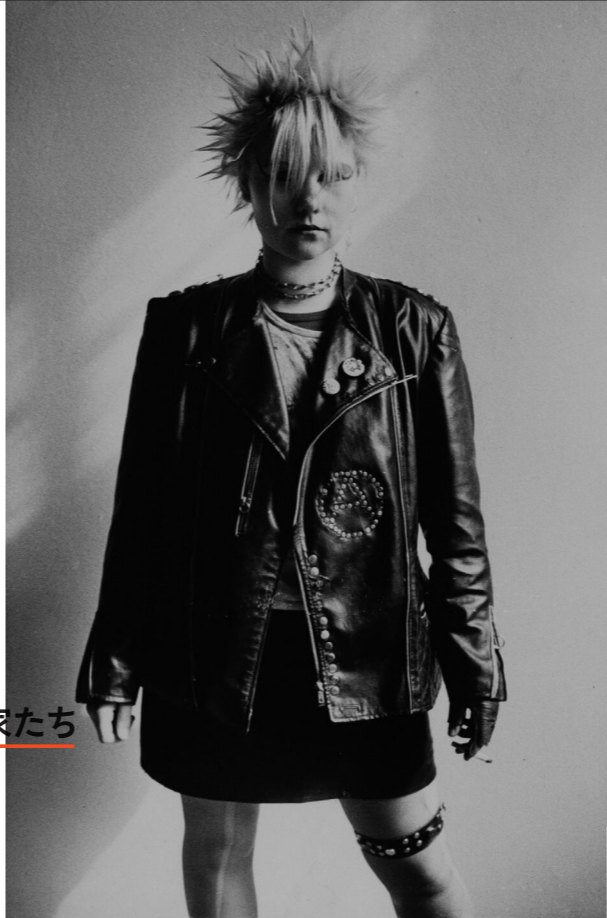


出品作家 With works by

- Tina Bara
- Christine Becker
- Sibylle Bergemann
- Christiane Eisler
- Margit Emrich
- Ute Mahler
- Eva Mahn
- Elisabeth Meinke
- Helga Paris
- Evelyn Richter
- Gundula Schulze Eldowy
- Maria Sewcz
- Gabriele Stötzer
- Brigitte Voigt
- Renate Zeun



05



02



04



03



01

Unprecedented Women Photographers from the GDR

もはやない国のかつてない光 東ドイツの女性写真家たち

[Hours] 9:30-17:00 (Last admission at 16:30)
 [Closed] Mondays (except July 20)
 [Admission] Adults: 1,200 yen/Under 20 and Students: 1,050 yen/
 65 and over: 600 yen/High School Students: 100 yen/
 Junior High School Students and under: Free
 *Please check our website for the latest information.

Organized by The Museum of Modern Art, Kamakura & Hayama
 With the cooperation of Stiftung Reinbeckhallen/
 Looock Galerie, Berlin/Goethe-Institut Tokyo
 Grants from ifa-Institut für Auslandsbeziehungen e.V.



2026.6.13 Sat - 8.30 Sun

The Museum of Modern Art, Hayama



06

神奈川県立近代美術館 葉山
 The Museum of Modern Art, Hayama

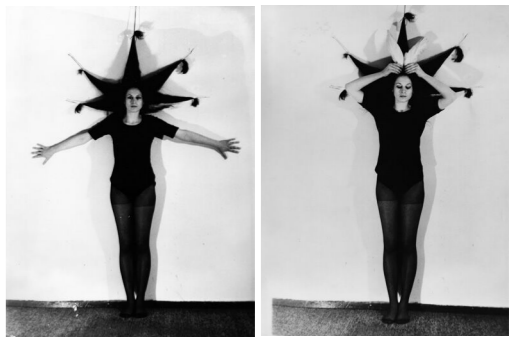
☎ 240-0111 神奈川県三浦郡葉山町一色2208-1
 2208-1 Isshiki, Hayama, Kanagawa 240-0111
 Tel. 046-875-2800 | Fax. 046-875-2968
 www.moma.pref.kanagawa.jp

07



08





15



14

アクセス

公共交通：JR横須賀線「逗子」駅前（東口3番のりば）または京浜急行「逗子・葉山」駅前（南口2番のりば）から京浜急行バス「逗11」または「逗12」系統（海岸回り・葉山行）で「三ヶ丘・神奈川県立近代美術館前」下車（所要約20分）| 車：横浜横須賀道路「逗子IC」または「横須賀IC」から7-8km

葉山館駐車場(有料)のご案内

営業時間：8時30分-18時（入庫は16時30分まで）| 駐車料金（1時間/追加は30分毎に加算）：普通車400円（7・8月 平日1,000円/土日祝および8月13-15日1,500円）、大型車1,200円（7・8月 2,500円）※本展観覧券をお持ちの方は1時間（7・8月は1時間半）無料です。※レストランやショップで2,000円以上ご利用いただいた方は1時間（併用で最大2時間/7・8月は2時間半）無料となります。※貸切バス等（定員11名以上の車）でご来館の場合、駐車場の事前予約および前面道路の通行許可申請が15日前までに必要です。



連携企画
まなごしの奇跡 日本女性写真家の冒険
 主催 **Bunkamura**
 会場 **ヒカリエホール**（渋谷ヒカリエ9F）
 会期 **2026年7月4日（土）-8月26日（水）**
 ※相互の子ネットのご提示で観覧料が割引となります。
 ※詳細は各展覧会のウェブサイトでご確認ください。

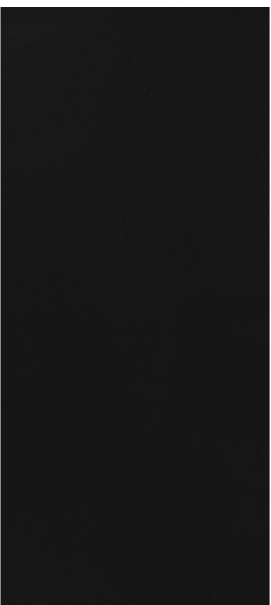
同時開催
コレクション展
鎌倉近代美術館「昭和の美術
 会場 **葉山館 展示室3b**
 会期 **6月13日（土）-8月30日（日）**
山室真二の版画画（かまくら博物館）
併陳コレクション「暮ら」の中
 会場 **鎌倉別館 Tel.0467-22-5000**
 会期 **5月30日（土）-9月27日（日）**



13

詳細とその他のイベント等は美術館ウェブサイトをご確認ください。
 The full program for the exhibition to be announced via our website.

関連企画



第二次世界大戦後、1949年に東西ふたつの国家へ分断されたドイツ。1990年の再統一によって消滅したドイツ民主共和国（東ドイツ）で女性が写真家としてキャリア形成し、自身の芸術表現としても優れた作品を手がけたことは、ドイツ写真史の再考において近年まで見過ごされてきました。とりわけ1970年代の後半以降、東ドイツで写真は自立した芸術形式として認識され、女性写真家たちは政府の委託、雑誌、プライベートといったさまざまな目的で撮影を行い、自作を流通させます。ドキュメンタリー、ストリート、ファッション、ポートレート、コンセプチュアルなど多様な領域にわたる本展の出品作品には、東ドイツの複雑な側面を描き出そうとする意識と同時に、写真というメディアの可能性を探索する姿勢が表れています。ベルリンのラインベックハレン財団が管理するスヴェン・ヘアマン氏のヴァンテージ・プリント主体のコレクションを中心に、当時、あるいは現在も重要な作家として活動する15人の女性写真家を紹介する本展は、かつて存在した国で社会と日常の光景に注がれた繊細な視線と確かな技術に注目し、それらの作品が視覚文化にもたらした役割、そして今なお放つ魅力を考えるものです。

In 1949, Germany was divided into two countries: the German Democratic Republic (GDR) and the Federal Republic of Germany (FRG). Women who built careers as photographers in the GDR and produced outstanding bodies of work offer perspectives that have often been overlooked in efforts to reassess the history of German photography. From the late 1970s onward—when photography was recognized as an autonomous art form in both Germanys—women photographers increasingly worked across a range of contexts, including state commissions, magazines, and independent projects, and circulated their work widely. This exhibition brings together documentary, street, fashion, portrait, and conceptual photography, reflecting a dual focus on depicting the GDR in all its complexity and exploring the possibilities of the medium. Featuring the work of 15 women photographers—drawn largely from the Sven Herrmann Collection, renowned for its vintage prints, and presented by Stiftung Reinbeckhallen—it highlights artists who were significant in their time and remain influential today. Through their work, viewers encounter nuanced perspectives and assured techniques brought to bear on society and everyday life in a country that no longer exists, and are invited to consider their role in diversifying the GDR's visual culture.



10



11



12

01. エーファ・マーン《影絵II》1983 | 02. クリステアーネ・アイスラー《ハイケ》1982 | 03. ジビレ・ベルグマン《記念碑、ベルリン、1986年2月》1986 | 04. クリステアーネ・ベッカー《エルベ川のシークエンス IV》1983 | 05. ウーテ・マラー《ベルカ、バウル》〈共生〉より 1985 | 06. ティーナ・バラ（セルフポートレート 59-76）[63-64] 1985/2025 | 07. マリア・ゼフツ《無題》〈インター・エッセ〉より 1985-87 | 08. エリザベート・マインケ《無題》1980 | 09. ジビレ・ベルグマン《アネッテとアンゲラ、ルストガルテン、ベルリン、1982年》1982 | 10. ブリギッテ・フォイクト《兄妹》1964 | 11. マーギット・エムリッヒ《無題、プラハ》1969 | 12. ヘルガ・ハリス《無題》〈ベルリン、トレフ・モデル縫製工場の女性たち〉より 1984 | 13. レナーテ・ツォイン《フリードリヒシュタットバラスト》1985 | 14. エフェリン・リヒター《ロシア》撮影年不明 | 15. ガブリエル・シュテツァー《女性詩人一詩》《女性詩人一詩、羽根を持った》1984/2025. All works © The Artists and The Estates. Courtesy Looek Galerie, Berlin [14. © Erbgemeinschaft Evelyn Richter. Courtesy Looek Galerie, Berlin]

開館時間 9時30分-17時（入館は16時30分まで）
休館日 月曜日（7月20日を除く）
観覧料 一般1200円（1100円）
 20歳未満・学生1050円（950円）
 65歳以上600円／高校生100円
 ※（ ）内は20名以上の団体料金です。中学生以下と障害者手帳等（ミライード可）をご提示の方（および介助者原則1名）は無料です。
 ※ファミリー・コミュニケーションの日、毎月第1日曜日（7月5日、8月2日）は、18歳未満のお子様連れのご家族は割引料金（65歳以上の方を除く）にてさせていただきます。※その他の各種割引はお問い合わせください。※最新情報は美術館ウェブサイトか電話にてご確認ください。

主催 神奈川県立近代美術館
協力 Stiftung Reinbeckhallen / Looek Galerie, Berlin / ゲーテ・インスティテュート東京

助成 ドイツ対外文化交流研究所

神奈川県立近代美術館 葉山

東ドイツの女性写真家たち



09